

愛媛県における持続可能な交通安全施設等の整備の在り方 報告書（骨子）

概要

愛媛県警では、県内の交通事故を更に減少させるための効果的な交通安全施設の整備の在り方について検討するため、学識経験者等で構成する検討会を設置しました。同検討会では、20年後の将来を見据えた、信号機を中心とする交通安全施設の持続可能な整備の課題と方向性について検討が行われ、この度報告書が取りまとめられました。これからの交通安全施設の整備の指針として活用してまいります。

検討会構成員

(座長)	松村 暢彦	愛媛大学社会共創学部環境デザイン学科教授
(委員)	金子 浩一	愛媛県企画振興部長
	西野 毅	国土交通省四国地方整備局松山河川国道事務所長
	清水 一郎	株式会社伊予鉄グループ代表取締役社長
	長井 基裕	株式会社愛媛新聞社執行役員編集局長
	吉川 陽子	愛媛県PTA連合会副会長
	高倉 純一	愛媛県老人クラブ連合会会長
	池田 多津子	宇和島警察署協議会委員（委員：順不同、敬称略）

報告書骨子

交通を取り巻く現状

- 人口、交通事故、走行台キロは減少傾向
- 県内総生産、道路延長は横ばい傾向
- 信号機の設置数は増加傾向
- 自動運転システム等今後導入されるシステム等の動向の注視が必要

持続可能な交通安全施設の整備に向けた課題

- 地域的な要素等を踏まえた計画的な信号機等の整備
 - ① 地域の実情、交通量や人口の増減等交通環境の変化等を十分に勘案した検討が必要
 - ② 交通量が増えた場合は、交通量に応じた交通安全施設の整備の検討が必要
 - ③ 交通量が減少した場合は、既設交通安全施設の見直しも含めた検討が必要
- 信号機等の計画的な維持管理
 - ① 信号機等の更新時には、交通状況等の調査を踏まえた検討が必要
- 大規模災害に備えた信号機等の整備
 - ① 停電時における信号機の稼働の確保が必要
 - ② 今後予測される大規模災害の発生に備えた整備箇所の見直しや既設の発動発電機の更新が必要

交通安全施設の整備に係る方向性

- 信号機等の整備の方向性
 - ① 新設・更新においては、地域的な要素に配慮し、設置の可否を判断
 - ② 新設・更新しない場合は、代替施設の導入を検討
- 信号機等の維持管理の方向性
 - ① 定期的な点検等により、適切な機能維持を図ることが重要
- 大規模災害に備えた整備の方向性
 - ① 既存の発動発電機の管理と計画的な整備・更新
 - ② 災害に強い信号機の導入等の推進



- 信号機以外の交通安全施設の研究
 - ラウンドアバウト
 - カラー舗装、交差点マーク
 - ハンプ、減速マーク
 - スムース横断歩道 ほか



まとめ

- 信号機の新設にあたっては、交通事故を防止するために、必要と認める場合には、交通状況を勘案して信号機の整備を検討する。
- 更新時期を迎えた信号機は、交通状況の変化を踏まえて更新の可否を検討し、更新をしない場合は代替施設の整備について、道路管理者や地域住民等の意見を聞きつつ判断する必要がある。
- 大規模災害に備えて発動発電機や災害に強い交通安全施設の整備と見直しを引き続き行う必要がある。